

2022年度 アユの遡上環境調査活動と魚捕り体験事業の記録

公益財団法人サイサン環境保全基金助成事業

越辺川・都幾川への天然遡上アユを増やし、親子を対象にした川遊びと川漁体験の実施

事業報告書

高麗川獅子岩橋のアユ漁体験事業 (8月21日)



越辺川石今橋のアユ漁体験事業 (9月11日)



都幾川長楽堰でのアユの標識放流作業 (5月24日)

C O N T E N T S

| | |
|------------------------|---|
| 1. 遡上調査活動の経緯と2022年度の目標 | ① |
| 2. 長楽堰の遡上環境改善と標識調査活動 | ③ |
| 3. アユの標識作業と長楽堰の遡上調査活動 | ④ |
| 4. アユ漁体験と魚捕りイベントの開催 | ⑦ |
| 2022年度の標識アユの調査結果のまとめ | ⑫ |

1. 遡上調査活動の経緯と2022年度の目標

(1) 活動の目的

東京湾と荒川水系の水質状況の改善により、2006年から遡上する稚アユが激増したが、入間川水系に魚道のない取水堰等が存在するため、劣悪な遡上環境が続いていた。私たちネットワークが魚道等の設置による環境改善を提案したことで、埼玉県による遡上環境改善事業が実現し、入間川水系の7つの堰等へ魚道が設置された。

さらに、2017年からは越辺川の2つの堰と都幾川の堰に魚道が設置された。設置された魚道を効果的に活かすため、遡上状況を調査してアユの遡上効果が上がらない魚道に対しては、補修等の活動も必要になってきた。

(2) 実施体制

実施主体 :NPO 法人 荒川流域ネットワーク

技術指導 :埼玉県魚類研究会 金澤 光

調査協力 :東松山農林振興センター / 埼玉南部漁業協同組合 / 入間漁業協同組合 / 埼玉西部漁業協同組合 / 武蔵漁業協同組合

(3) 新設魚道に対する調査の経過

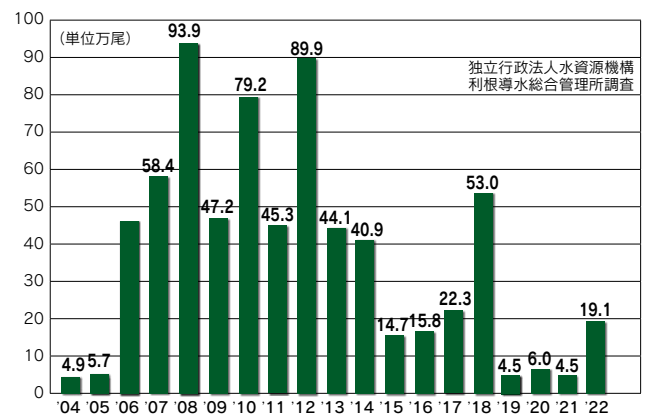
私たちネットワークでは、2009年から2013年まで、入間川流域にある50ヶ所を越える堰等にあユを放流して、遡上効果調査を行なった。その情報を魚道設置事業に対する資料として県に提供した。私たちネットワークの提案を受けて2012年から始まった県の「川のまるごと再生プロジェクト」事業で、入間川の堰や床固め工に設置された魚道に対する遡上効果調査を行ってきた。

2014年度は、新設された寺山堰の魚道と浅間堰の遡上補助施設の遡上効果を調べるため、アユに標識を付け、寺山堰下流から放流した。調査の結果、寺山堰と浅間堰の間で7尾の標識アユを再捕し、寺山堰の魚道の遡上効果を確認できた。

2015年度は、菅間堰の魚道がスロープの形状で一応の完成をみたが、大幅な改修が必要であることが分かり、さらに1年をかけて改修することになった。そこで、魚道に砂袋と石を仮置きして、流速や遡上環境を改善した上、アユに標識を付け、



秋ヶ瀬取水堰の魚道におけるアユ遡上数の推移



菅間堰の魚道下流に放流した。調査の結果、上奥富堰の魚道出口などで2尾の標識アユを再捕した。菅間堰の魚道改修に関し県と協議し、新たにプールを掘削して設けるなど、大改修が行なわれた。

2016年4月末に菅間堰魚道の大改修が終了したことから、堰下へ標識アユを放流した。魚道で映像調査した結果、122尾が魚道を遡上したことを確認した。入間川・越辺川水系で調査した結果8尾を再捕し、菅間堰の魚道の効果を確認した。

2017年度は、入間川に完成した8カ所の魚道の効果検証を行うため、菅間堰の下流で標識を付け、魚道の最下段のプールに放流した。魚道の流

量調整するとともに、菅間堰下流の魚類相調査も行った。調査の結果、入間川では8尾、都幾川では1尾の標識アユを再捕した。一部が笹井堰上流まで遡上したことが確認できた。

2018年度は、狭山地区の5つの魚道と越辺川の出丸堰に新設された魚道を対象に効果調査をするため、川越橋上流から入間川に、出丸堰の魚道下から越辺川にアユに標識を付けて放流した。同時に菅間堰、浅間堰で遡上補助施設を設置することにより、遡上環境の改善にも取り組んだ。調査の結果、上奥富堰の魚道は滞筋から離れ、遡上しづらい状況にあることが分かった。中山堰の魚道は遡上効果が認められた。

2019年度は、田島屋堰下流から入間川に、出丸堰上流から越辺川に標識放流した。調査の結果、入間川は霞川合流点で4尾を再捕したが、越辺川では再捕できなかった。標識放流数が少なかったこともあり、遡上効果を確認できなかった。

2020年度は、入間川の豊水橋床固め工上流から、標識を付けて放流した。コロナ禍のため、標識アユの放流数も少なかった。調査の結果、放流

場所から上流部で確認されたアユは3尾で、矢嵐堰下流では1尾も再捕できなかった。西武鉄道鉄橋下の床固め工が、遡上障害物になっている可能性を確認した。

2021年度は、都幾川の矢来堰に新設された魚道と私たちが2月に改修した入間川の浅間堰にある小型魚道の遡上効果を調査するため、両堰の下流から標識を付け放流した。入間川では上流側では標識アユを採捕できなかったが、目視での調査では遡上を確認することができた。都幾川は槻川の栃本堰の下流などで標識アユを再捕し、魚道の効果を確認できた。

(4)2022年度の活動計画

前年度に調査した矢来堰の下流にある長楽堰は魚道が未設置のため、3月に私たちが土嚢袋約40袋を設置し、堰堤下の落差を解消する作業を行なった。将来の本格的な魚道設置を見据えて遡上調査を行うことにした。調査結果を今後の提案活動等に生かす予定である。上流の都幾川二瀬橋で、調査を兼ねた魚釣りイベントも2回開催する。

入間川・越辺川水系にある取水堰・床固め工と2022年度の調査対象の取水堰



左岸側から見た長楽堰。堰堤下に約50cmの落差があり、魚の遡上を困難にしている



下流正面から見た長楽堰。堰堤中央部に落差が発生している

2. 長楽堰の遡上環境改善と標識調査活動

長楽堰での土嚢を積み上げた堰堤下の落差解消作業

3月21日(月) / 長楽堰の現地検分作業

天候 / 曇り 水量 / 平水

調査時間 / 10:00 ~ 11:00

従事者 / 鈴木、山本悦

長楽堰に対して土嚢を使った遡上環境改善作業をするにあたり、事前に堰堤の構造や落差の現状を調査した。水は中央部から越流している状態で、堰堤のエプロンから下のコンクリート床固め工の間の落差は約50cmほどあり、堰堤の越流部にも15cmほどの遡上障害になりそうな落差があった。落差の下は全て叩場になっていて、深さがないため魚がジャンプできる状況ではなかった。

この調査結果を元に、翌22日川島土地改良区

と荒川上流河川事務所越辺川出張所に対し、要請書と申請書とともに、作業計画の図面も提出した。

3月28日(月) / 長楽堰の遡上環境改善作業

天候 / 曇り 水量 / 平水

調査時間 / 13:30 ~ 15:30

従事者 / 浅井、白石、鈴木、山本悦

長楽用水路を渡るための鉄製の足場を2本、土嚢袋を運ぶ1輪車と4輪車も用意して、仮設のスロープ作りの作業に取り掛かった。堰堤の左岸下流に堆積している砂利を砂袋に詰め、堰堤まで運んだ。作った約40個の土嚢を越流部の左右の2箇所にもスロープ状に積み上げて約50cmあった落差を解消した。増水時に流されないように各土嚢を紐で結んだ。上部の落差部分にも落差解消のため土嚢を置いた。

土嚢の仮設魚道は5月30日まで設置することにした。



作業前の確認と資材の準備

堰下流に堆積した砂礫を土嚢袋に詰める作業。作った土嚢は約40袋



堰堤まで土砂を入れた土嚢袋を搬送



左岸側のエプロン下の落差に約20袋の土嚢を積み上げ、落差解消作業を実施



右岸側のエプロン下にも土嚢袋を設置



積み上げた土嚢が流されないように結束



土嚢設置後の長楽堰の全景

3. アユの標識作業と長楽堰の遡上調査活動

長楽堰下流でのアユのヒレ切り作業と都幾川への放流

5月24日(火)／長楽堰下流で標識作業

天候／晴れ 水量／濁水

調査時間／9:00～12:30

従事者／浅井、金澤、川島、佐藤、白石、鈴木、山本悦

今年は秋ヶ瀬取水堰下流で南部漁協が採捕した稚アユの数が少なく、調査用の稚アユをなかなか確保できず、最後に捕獲できた約1kgほどを調査地点の長楽堰に搬送してアブラビレを切除する標識作業を行なった。エプロン下の落差を解消するため、3月28日堰堤下に設置した土嚢袋は増水

の影響か、ほとんど下流に流されていた。また、当日は全ての河川水は用水路に流れ、堰下流は瀬切れを起こし、水溜りができている状態で、稚アユが遡上できる状態ではなかった。

稚アユは現地までビニール袋2袋に分けて搬送。7名で約1時間作業を行い、数は少なかったが、398尾の稚アユに標識を付け、水溜まりの状態になっている都幾川に放流した。標識アユを放流後、カワウに捕食されないように下流水面を農業用のネットで覆った。

その後、埼玉西部漁協が相模川の蓄養アユを放流するとき、長楽堰でもその一部を追加標識放流をする予定だったが、強い降雨のため断念した。



秋ヶ瀬取水堰から搬送して来た稚アユ



車から堰下流の高水式に稚アユを搬送



堰下流の高水式でアブラビレを切除



稚アユが少なく、1時間ほどで作業終了



標識アユを瀬切れ状態の都幾川に放流



増水で土嚢が流失し落差が再発生した堰堤

5月30日(月)／長楽堰で土嚢回収作業

天候／晴れ 水量／平水

調査時間／10:00～12:30

従事者／白石、鈴木、山本悦

3月28日に落差を解消するため、堰堤下流に仮置きした土嚢袋を回収した。土嚢は標識作業前の増水の影響で、半数以上は袋が破れ中の土砂は流失して、袋だけの状態になって下流に流れていた。全ての土嚢袋とブロックに引っかかっていたゴミを回収した。再び

50cmほどの落差が発生したエプロン下では、稚アユと思われる魚が盛んにジャンプをして遡上を試みていた。50m下流にカワウ対策で水面に張ったネットは増水時に流失して無くなっていた。



中の砂礫が流された土嚢袋を回収した



回収した袋とゴミは干して持ち帰った

7月1日(金)／矢来堰下流と二瀬橋上流で遡上調査

天候／晴れ 水量／渇水

調査時間／12:00～15:00

従事者／浅井、金澤、佐々木、鈴木、山本悦

武蔵漁協の投網解禁に合わせ、35度を越す猛暑の中調査を行なった。正午が解禁時間だったので、最初に今年標識放流した長楽堰のすぐ上流にある矢来堰下流で調査を開始した。伏流水のためか水温は低かった。川底は土砂で覆われ川ゴケが生育できる環境ではなく、アユの姿はなかった。河川工事の影響が未だ残っているようだった。

次に上流の槻川との合流点下流の二瀬橋まで移動して調査を実施した。二瀬橋下流から都幾川と

槻川の合流点上流50mほどまでを調査した。猛暑が続き渇水のため、槻川は水温が高くアユは捕獲できなかった。都幾川の方はやや水温が低かったためか、4尾のアユを捕獲できた。そのうちの1尾はアブラビレの上部が一部切れていたが、標識アユと確定できなかった。調査後8月11日に実施する魚釣りイベント時の駐車場を確認してから東松山県土整備事務所を訪ね、河川敷の一時使用に関する相談に行った。

調査場所／都幾川玉川地区

従事者／真野

標識アユは捕獲できなかった。アユは瀬ではなく深場にいるようだった。雑魚はオイカワ、ウグイが多く、カワムツは少なかった。



矢来堰の下から調査を開始



投網を打ちながら下流に移動しながら調査



200m下流まで調査したがアユの捕獲なし



二瀬橋下流から投網での調査を開始



都幾川と槻川の合流点から上流を調査



7月5日(火)／都幾川鞍掛橋上下流、月田橋下流、班溪寺橋上流で遡上調査

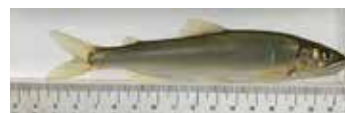
天候／晴れ 水量／渇水

調査時間／9:00～12:00

従事者／白石、山本悦

都幾川の3か所で調査を行なった。全体的に魚

影は少なく、オイカワ、カマツカ、カジカなどが網に入った。捕獲できたアユは、班溪寺橋上流で捕獲した全長155mmの1尾のみで、アブラビレ



は付いていた。標識アユは再捕できなかった。

7月11日(月)／坪の内橋上流～宮ヶ谷戸前堰魚道下流で遡上調査

天候／晴れ 水量／渇水

調査時間／10:00～12:00

従事者／白石、山本悦

水量が少なく、藻が繁茂していることと、台風

19号の復旧作業で河床が平面化しており、網が打ちにくい状況だった。坪の内橋上流の飛び石の下流で1尾取り逃した。雀川合流点の上流で全長160mm、宮ヶ谷戸前堰魚道下流で145mmのアユを各1尾を捕獲した。確認したアユ3尾、全てアブラビレがあり、標識アユは再捕できなかった。

**7月20日(水)／槻川下里の飛び石～割谷橋下流
島根橋下流～下里の堰下流**

天候／晴れ 水量／増水

調査時間／9:30～12:00

従事者／白石、山本悦

水量は若干多めで流れが早かったこともあり、投網を打てる所が限られた。またアユの御影もあまりなく、オイカワしか捕獲できなかった。

**7月26日(火)／大寺橋下流～大寺橋 仙元彩雲
橋下流～橋下**

天候／晴れ 水量／増水

調査時間／9:30～12:00

従事者／白石、山本悦

大寺橋下流付近では、アユは捕獲できなかった。河床が大岩などで構成されている地形が多く、投網を打てる所が限られた。仙元彩雲橋の調査では、下流の瀬で全長190mmのアユ1尾を捕獲したが標識アユではなかった。橋下は蛇籠の錆びた針金が多く注意が必要だった。全体的に魚影は少なかった。



**8月23日(火)／馬橋橋下流～相生橋 バイパス
橋下流～飛石間 大河橋上流～青山堰下間**

天候／晴れ 水量／平水

調査時間／9:00～12:00

従事者／白石、山本悦

栃本親水公園にある飛石の下流にアユの群を確認したが、水深が深く投網での捕獲は断念した。青山堰下の床固ブロック付近も凸凹で投網が難しいなど、河床や水深、藻の状況で投網の打ちにくい場所も多く、打てる所だけの調査となった。調査の結果、アユ3尾(185～200mm)を採捕したが、標識アユはいなかった。



アユを2尾捕獲した馬橋下流での調査再捕



捕獲した3尾のアユ

金澤氏の遡上調査結果

- | | | |
|--------|----------|------------|
| 6月29日 | 高麗川出世橋 | 地曳網漁候補地再確認 |
| 7月1日 | 都幾川矢来堰下流 | 標識魚なし |
| 7月8日 | 槻川帯沢 | 標識魚なし |
| 7月23日 | 都幾川新玉川橋 | 標識魚なし |
| 10月6日 | 都幾川新玉川橋 | 標識魚なし |
| 10月7日 | 都幾川新玉川橋 | 標識魚なし |
| 10月8日 | 入間川圏央道上 | 標識魚なし |
| 10月24日 | 都幾川新玉川橋 | 標識魚なし |



東秩父村帯沢の槻川



増水状態の宮ヶ谷戸前堰の下流部



新玉川橋上流。飛び石下流の瀬



新玉川橋上流の瀬



宮ヶ谷戸前下流の瀬

4. アユ漁体験と魚捕りイベントの開催

嵐山町二瀬橋で「アユ漁体験と魚捕り in 都幾川」を開催

開催日時／8月11日(木) 7:30～13:00

天候／晴れ 水量／渾水

スタッフ／浅井、梅澤、金澤、川島、佐々木、
佐藤、白石、鈴木、千葉、宮崎、三谷、
山本悦、山本実

参加者／4家族16人(大人8人・子供8人)

前日の17時に高坂の倉庫に集合し、3名で軽トラへ資材の積み込み作業を行なった。

当日は35度を超す猛暑とコロナ禍が広がる中の開催となった。事前に東松山県土整備に河川敷への駐車場の解放をお願いしたが、許可を得ることができず、参加者には嵐山町海洋センターの駐車場から10分ほど、猛暑の中を歩いて来てもらうことになった。7:30に集合して軽トラに積んでいた資材を橋の下流のゲートまで搬送した。橋の真下まで軽トラで資材を搬送できなくなったため、以前に比べ作業量が増え会場設営は大変な作業になった。

9:00から参加者が会場に到着し始め、受付を終えた順に子供たちにライフジャケットを着てもらった。開会の挨拶で地曳網漁に関する解説と安全管理について説

明をした。その後、橋上流約100mに移動して瀬張網を参加者も交えて設置し、100m下流に移動して曳網を持って地曳網漁を開始した。曳網は主に子供たちに前で曳いてもらい、大人は網の後方で抑える役に回り、全員で網を曳いた。瀬張網まで10mほどまで曳いたところで、投網を使って魚の捕獲を試みた。子供たちは必死に魚を探し、2尾のアユを捕らえることができた。網に掛かったアユに子供たちが殺到する姿が見られた。

地曳網漁が終わった後、ピストン釣りの説明をして釣り体験してもらった。タモ網による水性生物の捕獲体験は行わなかった。

ミニ水族館を開催して捕獲魚種が少なかったが、金澤氏から捕獲したアユ、オイカワ、コクチバス、オオクチバスなどについて紹介してもらった。捕獲したアユは塩焼きに、他の魚は唐揚げにして参加に食べてもらった。猛暑の中でのイベントだったため、計画していた投網の講習会は開催することができなかった。



橋の下まで資材を搬送。会場を設営した



到着した児童にライフジャケットを着用



最初に全員で上流に瀬張り網を設置



橋の下流から上流に向かい網を曳いた



瀬張り網の近くまで網を曳き魚を寄せた



子供たちに投網を川に伏せてもらった



ピストン釣り教室で釣り方を指導



魚捕り終了後泳いで遊ぶ子供たち



捕れたオイカワなどはフライにして試食



アユの塩焼きを参加者に食してもらった



ミニ水族館で当日捕獲した魚を紹介

日高市獅子岩橋で『アユ漁体験と魚捕り in 高麗川』を開催

開催日時／8月21日(日) 7:30～13:00

天候／雨のち晴れ 水量／平水

スタッフ／浅井、大熊、柏木夫妻、金澤、川島、佐々木、佐藤、白石、鈴木、廣川、真野、松本、宮崎、三谷、山本悦、山本実、城西大生4人

参加者／10家族43人(大人21人子供22人)

前日の7時に雨の中、3名で1トントラックに資材を積み込んだ。降雨の可能性も考えてテントを5張りともめに積み込んだ。

スタッフ集合時の7時30分にはまだ雨が降っていたが、会場の河川敷に資材を搬送した。8時にスタッフミーティングを行い、作業内容を確認してテント張りなど会場設営を行なった。河川敷にバーベキューに使われたゴミが散見されていた。とくに対岸の河川敷には大量の投棄されたゴミがそのままになっていたため、城西大の学生たちに回収をお願いし、参加者が来る前に綺麗な高麗川に戻すことができた。

9時には雨も止み、参加家族が到着してきたので、子供たちにライフジャケットと水中メガネを着用してもらった。9時30分、参加者に対して開会の挨拶とアユ漁の解説と安全な川での遊び方について説明した。



高水敷にテントを張り、会場を設営



子供たちにライフジャケットの着用指導



不法投棄された大量のゴミを回収



上流の橋下流に瀬張り網を設置



下流から子供たちを中心に曳網を曳く

アユ漁体験事業に移り、上流の獅子岩橋近くに移動して瀬張り網と刺網を全員で設置した。その後200mほど下流に移動して子供たちが網を曳き、大人が網の後ろ側で網が浮き上がるのを防ぐ体制で曳網を曳いた。流れが速い箇所もあり、子供たちにとっては重い網を曳くのは大変のようだった。瀬張り網との間が10mほどになったところで投網を子供たちに持ってもらい、合図と共に網を川に伏せる魚捕りを実施した。子供たちは夢中になって魚を探し、アユ5尾を捕獲、その他オイカワ、カワムツを多数捕獲した。

水分補給後、ピストン釣りとガサガサでの魚捕り体験を実施。ミニ水族館で、当日地曳網で捕れたアユ、オイカワ、カワムツ、カジカを子供たちに紹介した。

捕獲したアユは塩焼きに、オイカワとカワムツは唐揚げにして参加者に提供し、予め松本氏と真野氏が提供してくれた高麗川で捕獲した天然アユも提供して養殖のアユと食べ比べてもらった。夏の日差しが戻る中、高坂の倉庫へ資材を搬送した。



大人が網を押さえ、子供たちが曳網を曳く



曳網と瀬張り網間を狭め、魚捕りを開始



子供たちに投網を持ってもらい魚捕り



水中メガネで網に掛かった魚を探す子供達



アユの食べ比べをしている参加者



捕獲された魚をミニ水族館で紹介

鳩山町石今橋で『アユ漁体験と魚捕り in 越辺川』を開催

開催日時／9月11日(日) 7:30～13:00

天候／晴れ 水量／平水

スタッフ／浅井、柏木夫妻、加藤、金澤、川島、佐々木、佐藤、白石、鈴木、高橋、千葉、廣川、真野、松本、宮崎、澤田、伊田テクノス(株)・(株)細村建設4人

参加者／51人(大人27人、子供24人)、

事前に荒川上流河川事務所越辺川出張所を訪れ、高水敷の一時使用の届出書を提出して当地の車止めの鍵を借用した。会場として使えるよう、高水敷の除草もお願いしてきた。

前日の3時過ぎに会場予定地に行き、ほとやま環境フォーラムに協力してもらい、刈り払い機で刈り残された藪を切り払い、川へ降るルートと橋の下へ移動するルートを作った。

当日、越辺川はやや渇水状態の穏やかな流速だった。今回はスタッフとして河川を対象にして事業をしている伊田テクノス(株)、(株)細村建設社員の方4人が移動トイレも持って参加してくれたので大変助かった。また、お菓子、清涼飲料水などの差し入れもいただいた。

毎回アユの塩焼きとカキ氷を提供してくれた三谷釣漁具店の人たちが来れなかったが、代わりにアユの塩焼きが上手な川島町の加藤さんが仲間と参加して、塩焼きを担当してくれた。

テントを張り、会場設営が終了すると参加者が到着し始め、受付後子供たちにライフジャケットを着用してもらった。コロナ禍のため広報活動を控えめにしたが、それでも多数の申込みがあり、数家族に対しては断らざるを得なかった。集合時間の9:30分には50人を越す一般参加者が参集し、賑やかな中、体験活動を始めた。

最初に全員で橋の上流に移動して瀬張り網を設置し、作業を終えた後は下流に移動して参加者に曳網を持ってもらい地曳網漁を開始した。瀬張り網まで網を曳いてもらい投網で捕獲を試みたが、アユは捕獲できなかった。今回も子供たちに投網を持ってもらい川に網を伏せてもらった。オイカワなどが多数捕獲できたが、アユは捕れなかった。

地曳網漁体験終了後は、アユの塩焼きができたので参加者に試食をしてもらった。アユは城西大の松本さんと真野さんが入間川水系のアユの味を多くの人に紹介するために、高麗川と都幾川の上流で捕獲したものである。

試食後はオイカワなどを対象にしたピストン釣りや投網の投げ方教室を開催した。投網教室では若いお父さんたちが投げ方を習得しようとして一生懸命打っていた。最後に1尾のアユを捕らえることができ、投網ファンを増やすことができた。

今回のミニ水族館では関西のタナゴであるカネヒラが捕獲され紹介した。捕獲したオイカワ等はフライにして子供たちに試食してもらった。



石今橋から見た設営が終わった会場



子供たちにライフジャケットを着用



橋の上流側に全員で移動し瀬張り網を設置



橋下流に移動して地曳網漁を開始



橋の下で網を曳く参加者



網を押さえながら瀬張り網に向かう参加者



2つの網の間隔を狭めたところで魚捕り



網に掛かった魚を探す子供たち



ピストン釣りに挑戦する子供たち



投網漁に挑戦するお父さんたちに



入間川水系の天然アユ食べる子供たち



当日捕れた魚の説明に耳を傾ける参加者

嵐山町二瀬橋で『アユ漁体験と魚捕り in 都幾川』PART2 を開催

開催日時 / 10月9日(日) 7:30 ~ 13:00

天候 / 曇り時々晴れ 水量 / やや増水

スタッフ / 浅井、柏木夫妻、金澤、佐藤英、沢田、白石、鈴木、高篠、千葉、真野、松本、宮崎、廣川、吉田

参加者 / 4家族 16人 (大人8人子供8人)

10月8日11時、高坂倉庫に集まり、資材積み込み作業を行なった。搬送用の軽トラは比企自然学校から借用した。作業終了後近くの都幾川に水量を見に行ったが、前日の降雨で増水しているのを

確認し、地曳網体験の実施は難しいと思われた。

9日は二瀬橋の都幾川はやや増水の水量状況は変わらず、水温も低かったため子供たちに川の中で網を曳いてもらうことは断念した。現地に到着した軽トラは車止めが設置されたため、高水敷に乗り入れができないようになり、資材を橋の下まで搬送する作業が大変となった。

川の近くに駐車場を確保できなかったため、一般参加者には嵐山町 B&G 海洋センターの駐車場から歩いて来てもらった。今回は前々日の降雨で気温が下がり、川遊びには厳しい天候になり数家族から辞退の連絡があり参加家族も16人と少なかった。寒さ対策として七輪も複数用意をした。

子供たちには申し訳なかったが見学してもらうことにして、地曳網は大人とスタッフのみで上流から下流に向かって曳網を流す方法で実施した。流れが速く網が浮き、投網を打ち捕獲を試みたが魚はほとんど捕獲できなかった。

地曳網漁を体験・見学してもらった後、子供たちを対象に投網教室を開催した。高水敷にシートを敷いてそこにお菓子を置き、投げ方をレクチャーして上、子供用の小型投網で取ってもらった。投網漁を体験するいい機会になったと思う。

10時30分にサイサン環境保全基金の現地視察のメンバーが到着し、交流会を開催し活動を見

学してもらった。松本さんと真野さんが槻川で捕獲したアユの塩焼きも試食していただいた。

アユの塩焼きの試食後、大人の参加者には川での投網の打ち方の練習と、ピストン釣りの体験もしてもらった。アユは捕獲できなかったが、オイカワを釣り上げ参加者がいて、歓声をあげていた。

ミニ水族館も開催し、捕獲したオイカワ・カジカ・トウヨシノボリなどを紹介した。今回は捕獲できた魚が少なかったが、子供たちは埼玉魚類研究会の金澤氏の話真剣に聞いていた。

厳しい河川状況だったが、参加者は魚取り体験を楽しんでもらえたようだ。



テントを張り二瀬橋の上流左岸に会場作り



参加した子供にライフジャケットを着用



今回は橋の下流に瀬張り網を設置



増水のため上流側から大人で曳網を曳く



子供たちが見守る中、慎重に網を曳く



網の間隔を狭めて魚よ左岸側に寄せた



投網で捕獲を試みたが、捕獲できなかった



サイサン環境保全基金の人たちとの交流会



子供を対象にした投網の講習会



高麗川・槻川の天然アユの塩焼きを提供



天然アユについて子供たちに解説する



捕れた魚をミニ水族館で紹介した

2022年度 長楽堰に設置した仮設魚道に対する遡上効果調査表

(2022年7月1日～10月24日)

| 調査日 | 時間 | 河川名 | 調査地点 | 調査方法 | 捕獲アユ数 | 標識アユ数 | 調査状況 | 調査者 |
|---------------|-----------------|------------|---------------------|-----------|-------|-------|--|----------------------------|
| 7月1日 (金) | 12:00～ 13:20 | 都幾川 | 矢来堰下流 | 投網 | 0 | 0 | 正午の投網解禁に合わせて長楽堰のすぐ上流の矢来堰下流で調査。アユは捕獲できなかった。 | 浅井、金澤、 佐々木、白石、 鈴木、山本 |
| | 14:10～ 15:00 | 都幾川・ 槻川 | 二瀬橋上流 | | 4 | (1) | | |
| | | 都幾川 | 新玉川橋上流 | | — | 0 | 瀬ではなく深場にアユはいるようだった | 真野 |
| 7月5日 (火) | 9:00～ 12:00 | 都幾川 | 鞍掛橋上下流 | 投網 | 0 | 0 | アユは捕獲できなかった | 白石、山本 |
| | | | 月田橋下流 | | 0 | 0 | アユは捕獲できなかった | |
| | | | 班渓寺橋上流 | | 1 | 0 | 全長155mmのアユを捕獲。標識アユではなかった | |
| 7月8日 (金) | | 槻川 | 東秩父村帯沢 | 投網 | — | 0 | 標識アユは捕獲できなかった | 金澤 |
| 7月11日 (月) | 10:00～ 12:00 | 都幾川 | 坪の内橋上流～ 宮ヶ谷戸前堰下流 | 投網 | 2 | 0 | 雀川合流点上流で全長160mm、魚道下流で145mmのアユを各1尾を捕獲したが、標識アユはいなかった | 白石、山本 |
| 7月20日 (水) | 9:30～ 12:00 | 槻川 | 下里の飛び石～ 割谷橋下流 | 投網 | 0 | 0 | やや増水の状態でアユを捕獲できなかった | 白石、山本 |
| | | | 島根橋下流～ 下里堰下流 | | 0 | 0 | | |
| 7月23日 (土) | | 都幾川 | 新玉川橋上流 | 投網 | — | 0 | 標識アユは捕獲できなかった | 金澤 |
| 7月26日 (火) | 9:30～ 12:00 | 槻川 | 大寺橋下流～ 大寺橋間 | 投網 | 0 | 0 | アユは捕獲できなかった | 白石、山本 |
| | | | 仙元彩雲橋下流～ 橋下 | | 1 | 0 | 橋下流で全長170mmのアユを各1尾を捕獲。標識アユではなかった | |
| 8月11日 (木) | 7:30～ 13:00 | 都幾川 | 二瀬橋上下流 | 地曳網 投網 | 2 | 0 | アユ漁体験を兼ねた地曳網漁で2尾のアユを捕獲したが、標識アユは捕獲できなかった | スタッフ13人 参加者16人 |
| 8月23日 (火) | 9:00～ 12:00 | 槻川 | 馬橋橋下流～ 青山堰下流 | 投網 | 3 | 0 | 全長185～200mmのアユ3尾を捕獲したが、標識アユは捕獲できなかった | 白石、山本 |
| 10月6日 (木) | | 都幾川 | 新玉川橋上流 | 投網 | — | 0 | 標識アユは捕獲できなかった | 金澤 |
| 10月7日 (金) | | 都幾川 | 新玉川橋上流 | 投網 | — | 0 | 標識アユは捕獲できなかった | 金澤 |
| 10月9日 (日) | 7:30～ 13:00 | 都幾川 | 二瀬橋上下流 | 地曳網 投網 | 0 | 0 | アユ漁体験を兼ねた地曳網漁で捕獲を試みたが、アユは捕獲できなかった | スタッフ15人 参加者16人 |
| 10月24日 (月) | | 都幾川 | 新玉川橋上流 | 投網 | — | 0 | 標識アユは捕獲できなかった | 金澤 |
| アユ・標識アユ捕獲合計 | | | | | 13 | (1) | 調査従事者合計82人 | |

2022年度の調査結果のまとめ

2021年に都幾川の矢来堰に魚道が完成し、既に完成していた越辺川の出丸堰、中山堰の魚道を合わせて魚の遡上環境が大幅に改善された。ただし中山堰と矢来堰との間にある長楽堰が障害物として残ったため3月に土嚢袋40個を使い落差を解消した上で、5月24日に398尾の稚アユの油ビレを切除して堰下流に放流した。土嚢設置後に発生した増水で積み上げた土嚢はなくなり、標識放流時は増水により堰の越流水もなくなり、魚が遡上できる環境は全く失われていた。

放流数が少なく、遡上環境も悪い状態が続いて

いたためか、7月1日から10月24日間の調査で確実な標識アユとして確認できたアユは捕獲できなかった。都幾川でアブラビレの上部が鋭利なもので切断された状態のアユが1尾確認できたが、完全に切除されていないので参考記録とした。また、栃本堰の下流で標識アユを捕獲したという情報もあったが、写真がないため参考記録とした。

今年度の調査では明確な調査結果は得られなかったが、増水時にアユが遡上する時の障害物になっていることが確認できた。今後も本格的な魚道の設置に向けて、アユの遡上時に仮設魚道を設置し、遡上環境を改善することが必要であると思われる。



ARAKAWA
BASIN
NETWORK